

## 各種臨床分離株に対する経口セフェム系薬の薬剤感受性

中村 竜也 (関西医科大学病院 中央検査部) , 中田千代 , 田中敬一郎 , 内田幸子  
佐野みゆき , 平城均 , 宗像真智子 , 高橋伯夫

2002年から2003年にかけて関西医科大学付属病院にて臨床材料より分離された市中感染症の主要原因菌について、経口セフェム系薬剤 cefaclor (CCL), cefroxadine (CXD), cefdinir (CFDN), cefixime (CFIX), cefpodoxime (CPDX), cefteteram (CFTM), cefcapene (CFPN), cefditoren (CDTR) の抗菌力を比較した。

【材料】2002年から2003年にかけて関西医科大学付属病院にて臨床材料より分離された *S. pneumoniae* (53株), *H. influenzae* (50株), *E. coli* (30株), *K. pneumoniae* (28株), *S. aureus* (30株), *S. agalactiae* (30株), *S. pyogenes* (20株) を使用した。

【方法】最小発育阻止濃度 (MIC) の測定は日本化学療法学会標準法の微量液体希釈法に準じてフローズプレート栄研 (栄研化学) を用いて行った。培養条件は35、好気培養にて16~20時間後に判定した。

【結果】*S. pneumoniae* ではCDTRがMIC50,80,90全てで他の薬剤よりも低値であり最も優れた抗菌力を示し、それぞれ0.25 $\mu$  g/ml, 0.5 $\mu$  g/ml, 0.5 $\mu$  g/mlであった。

*H. influenzae* ではCDTR>CFTM>CFPN=CFIXの順であった。MIC90はCDTRで0.25 $\mu$  g/ml、次いでCFTMで0.5 $\mu$  g/mlであった。CCL, CXDはMIC90で64 $\mu$  g/mlと高値であった。*E. coli* ではCCL, CXDを除きMIC90は0.5~1 $\mu$  g/mlであった。ESBL産生菌ではCFIXで2 $\mu$  g/mlが1株存在したがそれ以外はほとんどが>64 $\mu$  g/mlを示した。*K. pneumoniae* ではCFIX>CFDN=CPDX>CFTMの順であった。MSSAではCFDNがMIC50,80,90全てで他の薬剤よりも低値であり最も優れた抗菌力を示し、全て0.5 $\mu$  g/mlであった。*S. agalactiae* ではCCLおよびCXDを除き良好なMIC値を示した。*S. pyogenes* では全ての薬剤で良好なMIC値を示した。

【まとめ】近年、様々な菌種でその治療薬に対する耐性菌の増加が問題となっており、特に市中感染症で分離される主要菌種の薬剤感受性動向を把握しておくことは重要である。抗菌力の比較では各薬剤の特徴を反映するものであった。

連絡先：関西医大病院 中央検査部 06-6992-1001(3120)